

東書教育賞は教育現場を 支援します



代表取締役社長

川畑慈範

おはようございます。紹介のありました東京書籍の川畑でございます。主催者を代表いたしまして、一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

第28回東書教育賞を受賞された先生方、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。本日は公私ともご多忙の中、休日にもかかわらず、またご遠方より贈呈式にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。

新しい学習指導要領による教育が全面实施されて、今年の4月から小学校は3年目、中学校と高等学校の理数は2年目に入り、ようやく学校現場も新しい学習指導要領への対応に慣れて、落ち着きを取り戻されたと感じておりました。

その矢先、年末に行われた衆議院解散・総選挙の結果、「教育再生」を選挙公約の大きな柱に据えた新政権に交代したことによって、教育界に新たな変化の波が押し寄せてくることになりそうです。

「コンクリートから人へ」を旗印に掲げた前政権は、公立高校の授業料無償化や私立高校の就学支援金を実現いたしました。新政権は、早々と高校授業料無償化について、所得制限を導入するなどの見直しを表明しています。全国学力・学習状況調査に関しても、悉皆調査は数年に一度とした前政権の方針を改めて、毎年悉皆に戻すという方針を打ち出しています。また、昨日の新聞等の報道によりますと、道半ばの35人以下学級も白紙に戻るようです。

これらの個別の政策の是非は措くとして、政権が変わるたびに、教育政策が大きく揺れ動き、現場がその対応に追われるということが繰り返されそうです。

話は変わりますが、IEA(国際教育到達度評価学会)が、一昨年3月に実施したTIMSS(国際数学・理科教育動向調査)の結果が年末に公表されました。4年前の調査と比べて日本の平均点は、算数・数学、理科とも小学生(4年生)は上昇し、中学生(2年生)は横ばいという傾向でした。

この結果について、文部科学省は、新学習指導要領の先行実施と授業時数増、全国学力・学習状況調査に基づく検証・改善の取り組みが背景にあり、学力は改善傾向にあるとの見解を示しています。

ただ、同時に行われた意識調査では、依然として子どもたちの学習意欲や学習への関心、わが子の学習に対する保護者の関心が参加国の平均を大きく下回っていることなどの問題点が指摘されています。

ご承知のように、いくつかの研究によって、子どもの学習に対する保護者の関心の程度を左右する保護者の経済的・文化的な生活環境の格差が、学習環境の格差となり、学力の格差を生む原因の一つになっていることが明らかにされています。

「経済再生」と「教育再生」を二枚看板とす

る新政権には、子どもたちの学習、とりわけ学習意欲に影響を及ぼす生活環境の改善につながる経済政策と並行して、学力や学習意欲が低い層へ教育資源を多く配分するなど、実際に教育が行われている現場において具体的な格差是正策を講ずることを最優先の課題として取り組んでいただくよう切に願うものでございます。

教科書・教材の制作を主業としております弊社も、私どもにできることは限られており、微力ではありますが、教育が直面する様々な問題の解決のお役に立てるよう、力を尽くして参る所存でございます。

最近読んだ、ある教育社会学者の方が書かれた本^(注)の中に、著者が投げ掛けた「教師の資質・能力で何がいちばん重要か」という質問に答えた高校の先生（退職者）の話が紹介されていました。その先生は、次のように答えておられます。

「あるまとまりをもった知識・技術よりも、むしろ知識・技術を生徒に応じてどのように変化させていくか、あるいは新たにどう開発していくかという、常に研究していくという態度こそが教師に求められる。探究心といったらよいのでしょうか。それが教師の成長の原動力にもなるのではないのでしょうか。」

この話を受けて、この著者は「探究心は授業の教材研究であれ、生徒指導、学級経営、保護者との関係であれ、教師の職務すべての領域で発揮される実践の原動力になるものである。」

と述べておられました。

本日受賞された先生方はもちろん、当教育賞にご応募いただいた先生方は、まさに「探究心」に溢れた先生です。探究心を原動力とした先生方の弛まぬご実践とご研究に心より敬意を表する次第でございます。

弊社は、これまでも受賞された先生方のご実践の記録を論文集としてまとめ、学校や教育委員会など教育関係機関にお届けして参りました。それは、授業改善に取り組んでおられる先生方のお役に立てていただきたいということと同時に、受賞された先生方の「探究心」を学んでいただきたいとの思いからでございます。今回も論文集を作成する予定でございます。

最後になりましたが、公私ともご多忙な中、最終審査をご担当いただきました審査員の先生方、一次審査をご担当いただきました東京教育研究所主任研究員の先生方はじめ多くの先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、本日ご出席いただきました報道関係者の皆様方に感謝申し上げます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

改めて受賞された先生方、本日は誠におめでとうでございます。今後のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(注) 今津孝次郎『教師が育つ条件』（岩波書店、2012年）p.p.56～58